

先輩ママからのメッセージ

たちばな かおる

赤ちゃんが小さいうちは、この先この子は成長してくれるんだろうかと不安になってしまうこともあります。でも、大丈夫！先輩ママが、元気な毎日過ごす「ユンタくん」の成長をマンガにしてくれました。赤ちゃんと家族の未来は、きっと笑顔の毎日。そんなメッセージを感じてください。



♪たちばな かおる♪

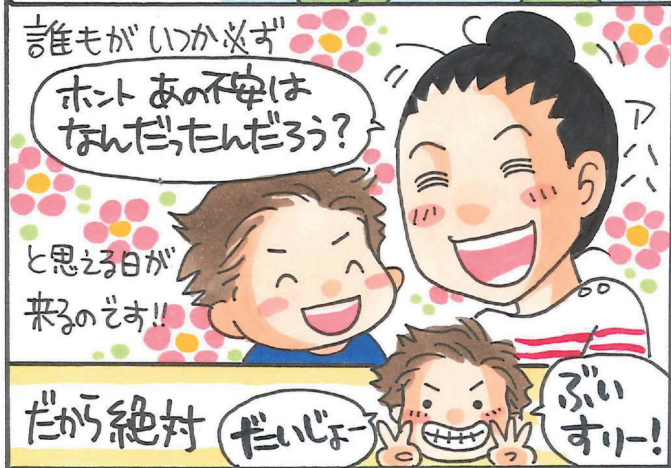
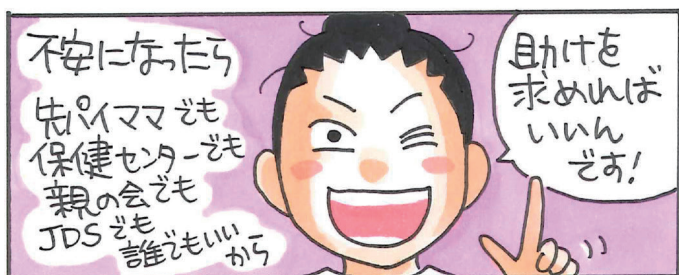
1970年生まれ 某ファッション誌の編集者を経て、マンガ家デビュー。作品も本人もエネルギー溢れるたちばなさんは、ダウン症のある長男・ユンタくんを筆頭に、4人の男の子（ダンナ含む）と格闘する毎日。だけど、ユンタくんのゆったりパワーで、家族の絆と笑いのバロメーターは最高潮に！



* この作品は 2013 年に描かれたものです







生後まもなく

ダウン症のある子はとてもゆっくり育ちます。
生後数カ月は眠ってばかりかもしれません。
哺乳力が弱いので、授乳に時間がかかる場合もあるでしょう。

ユンタの授乳も、それはそれは時間のかかるものでした。
あまりに長くかかるので、授乳しながら仕事はもちろん、ながら洗濯、ながら料理、ながらヨガに至るまで、なんでも授乳しながらやりました（笑）。

授乳が落ち着き始めた生後7カ月で寝返りができるようになり、その流れでじわじわと2カ月かけてお座りができるようになりました。体が柔らかいので足の角度がすごいことに！

※ユンタくんのように開脚してお座りすることをあまり推奨しない場合もあります。気になるときは療育の先生に相談しましょう。



歩くまで

お座りが完成したものの、立つまで、歩くまでには予想以上に時間がかかりました。

一日も早く歩いてもらいたくて、手押し車や歩行器を与えたり、足首を安定させるハイカットのスニーカーを海外から取り寄せたり。もちろん療育施設で歩く練習もさせました。

でも、今になって思うんですが、筋力の発達が伴わないうちは、歩けと言われても歩けるわけがないんですよ。

焦って悩んで落ち込むより、焦らずのんびり待ってあげること、愛情と時間をたっぷりかけてあげることが成長への一番の近道のような気がします。



オムツのこと

ユンタは4歳半でオムツはずしに取り掛かり、5歳過ぎに9割方、成功しました。

とはいえ、オムツはずしに関しては、こちらから働きかけたのではなく、「保育園の友達は、みんなもうオムツをしていない」という事実気づいたユンタが、自発的に見切りでオムツ終了宣言をしてしまったのです。

しかし、それまで一度もトイレに挑戦したことのないユンタのオムツが、そんなに簡単に取れるわけがありません。

オシッコが出た後で、「なんか冷たい！ なにこれ！」というところからの始まりです。これはもう、母の畢生の大業（ひっせいのたいぎょう*）でした（笑）。

何でも見切りで始めてしまうユンタのこの性格、間違いなく私に似ています。



* ひっせいのたいぎょう……生涯のうちにやられるあらゆる物事の中で最も偉大な業績や営みを指す

ゆっくり育つ面白さ

子どもの成長というと、やはり「立つ」「歩く」「しゃべる」が3大メモリアルだと思います。

しかし、ダウン症のある子どもは成長がゆっくりなので、「立つ」だけでは済みません。

「立ったまま振り向く」「立ったまま拍手をする」「立ったままピースする」…といった具合に「立つ」だけで100項目くらいに分かれて、メモリアルが増えていきます。

だから当然、次男・三男の育ちに比べて、思い出も写真も多い(笑)。

ゆっくりゆっくり育つユンタの成長にかかる時間は、2倍・3倍(いやそれ以上!?)。

だけど、驚きと喜びと感動は、その10倍も大きいのです!!



仕事もできます!

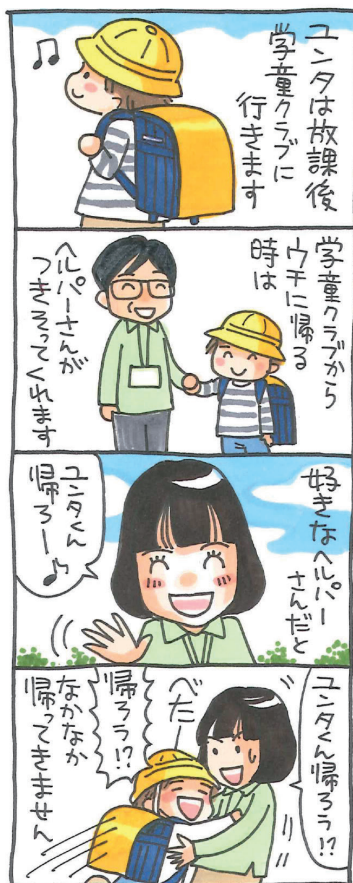
ユンタにダウン症があるとわかったとき、真っ先に不安になったのは、ユンタの健康でも将来でもなく、「もうこの先、自分は働けないんだろうか?」ということでした。

障がい児を産んだら、死ぬまでその子の面倒だけを見ることになるのだと思い込んでいたのです。

しかし、実際はユンタを産んだからといって、仕事を辞めたり何かを諦めたりなど、自分を犠牲にする必要はまったくありませんでした。

手当やサービスがいろいろあるはずなので、役所や保健センターなどに相談してみてくださいね!

※障がいのあるお子さんやその親に向けた手当やサービスについては、お住まいの地域の福祉課や保健センターなどの窓口で相談してみましょう。



ダウン症の特徴

ダウン症は先天的な染色体異常で、持って生まれた体質のようなもの。

病気ではありませんが、心臓病などの合併症があったり、知的障がいや筋力の弱さを伴う場合が多くみられます（ちなみに、ダウン症のある方は、特徴的な顔立ちをしているといわれますが、やっぱりみんな、親に似ていますよ）。

障がいのあらわれ方は千差万別ですが、ユンタの場合はおしゃべりが遅く、3歳直前まで意味のある言葉はほとんど出てきませんでした。

3歳を過ぎ、少しずつ発声が増えましたが、なぜか出てくるのは単語の最後の文字ばかり…。

「牛丼」が「うどん」になるユンタ語の理解には、かなり高度な読みが必要なのでした（笑）。



この7年

ユンタが生まれて早7年。

彼は今、近所の小学校の特別支援学級に通っています。

ゆっくり、だけど着実に、通学路を覚え、ひらがなの読み書きを覚え、同年代の友達と遊べるようになりました。

宿題の後のプロレス観戦という、ささやかな趣味も見つけました。

体が小さいので、ランドセルを背負った後ろ姿は登山家のようにですが、黙々と通学路を歩くユンタをみるたびに「大きくなってくれてありがとう」と毎朝嬉しくなるのです。

ユンタはこれからもたくさんの成長を見せてくれることでしょう。

ひょっとしたらものすごい才能が潜んでいるかもしれません！

たくさんの可能性をもっている彼をこれからものんびり見守っていきたいと思います。



*この作品は2013年に描かれたものです

子どもの障がいはいは **イヤッ!**と受け入れる
ものではありません。



そうじから願うことが、受け入れの
第一歩なんだと思います。

たちばなさんちのハイテンション育児奮闘記・ユンタくんの活躍をもっと読みたい方は…
『ユンタのゆっくり成長記 ダウン症児を育てています。』双葉社・2013年発行
『たちばなさんちの長男坊 ユンタのゆっくり成長記』双葉社・2014年発行
『ダウン症児の母親です！毎日の生活と支援、こうなってる』講談社・2014年発行
『長男・次男・三男・夫よ 早く大人になってくれ!! (震え声)』双葉社・2016年発行
他 多数